## 会社概要

| | |
|---|---|
| **商号** | 日産化学株式会社<br>NISSAN CHEMICAL CORPORATION |
| **本社** | 〒103-6119 東京都中央区日本橋二丁目5番1号<br>電話（03）4463-8111 |
| **創業** | 1887年4月 |
| **設立** | 1921年4月 |
| **資本金** | 18,942百万円 |
| **従業員数** | 2,870名（連結） |

## 株主メモ

**事業年度**
毎年4月1日～翌年3月31日

**定時株主総会**
毎年6月

**基準日**
定時株主総会・期末配当：毎年3月31日
中間配当：毎年9月30日

**1単元の株式の数**
100株

**上場証券取引所**
東京証券取引所 プライム市場

**株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関**
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

**郵便物送付先・電話お問合せ先**
〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
0120-782-031（フリーダイヤル）

**会社法改正により、**
**2023年以降の株主総会招集**
**ご通知は、原則ウェブ化されます**

インターネットでのご確認方法のご案内や、議決権行使書につきましては、引き続き郵送でお送りします。
招集ご通知を引き続き紙面でお受け取りになりたい株主様は、**お早めに「書面交付請求」の手続をお願いします。**
リーフレットを同封しておりますので、詳細につきましてはそちらをご参照ください。

## 役員（2022年9月30日現在）

| | |
|---|---|
| 代表取締役 取締役会長 | 木下　小次郎 |
| 代表取締役 取締役社長 | 八木　晋介 |
| 取締役副社長 | 本田　卓 |
| 取締役 専務執行役員 | 石川　元明 |
| 取締役 常務執行役員 | 松岡　健 |
| 取締役 常務執行役員 | 大門　秀樹 |
| 取締役（*1） | 大江　忠 |
| 取締役（*1） | 大林　秀仁 |
| 取締役（*1） | 片岡　一則 |
| 取締役（*1） | 中川　深雪 |
| 常勤監査役（*2） | 鈴木　規弘 |
| 常勤監査役（*2） | 竹本　秀一 |
| 常勤監査役 | 生頼　一彦 |
| 監査役（*2） | 片山　典之 |
| 常務執行役員 | 遠藤　秀幸 |
| 常務執行役員 | 佐藤　祐二 |
| 執行役員 | 浜本　悟 |
| 執行役員 | 高子　康 |
| 執行役員 | 野村　正文 |
| 執行役員 | 畑　利幸 |
| 執行役員 | 松村　光信 |
| 執行役員 | 青木　篤己 |
| 執行役員 | 川島　渡 |
| 執行役員 | 沖川　敏章 |
| 執行役員 | 中川　明浩 |
| 執行役員 | 石綿　紀久 |

（*1）社外取締役　（*2）社外監査役

**IR 情報はウェブサイトからもご覧になれます**
https://www.nissanchem.co.jp/　日産化学　検索

**住所変更、単元未満株式の**
**買取・買増などのお申し出先について**
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座に記録されました株主様は、三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

**未払配当金のお支払いについて**
三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

日産化学株式会社

UD FONT　FSC ミックス 紙｜責任ある森林管理を支えています FSC® C022784　VOC成分ゼロ

株主・投資家の皆様へ

# Business Report

## 第153期 中間報告書

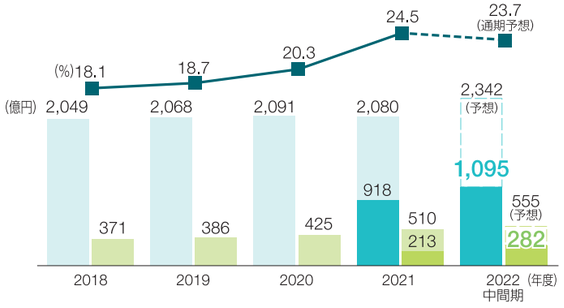
2022年4月1日から2022年9月30日まで

証券コード：4021

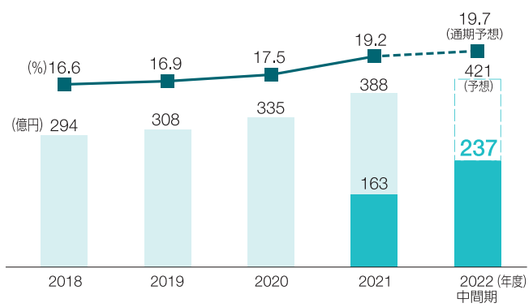
日産化学株式会社
未来のための、はじめてをつくる。

## 連結財務ハイライト

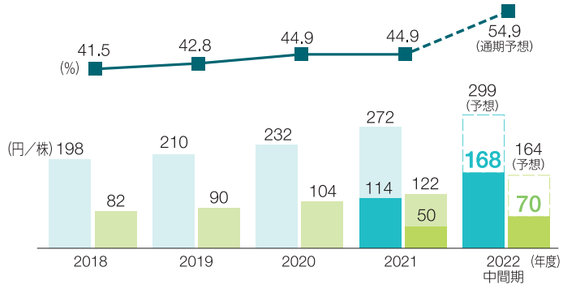
売上高／営業利益／売上高営業利益率



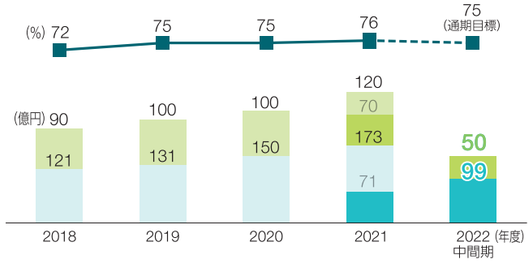

親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益／ROE




EPS（1株当たり四半期（当期）純利益）／配当／配当性向




配当総額／自己株式取得額／総還元性向




## Pick Up

### Arieca Inc.への出資

当社は本年5月、熱伝導材料（TIM）の開発を行っている米国Arieca Inc.への出資を決定しました。Arieca社は、2018年に米国カーネギーメロン大学から独立した企業であり、液体金属埋め込みエラストマー技術を用いて、TIMの低熱抵抗・高耐久性を実現しています。近年、半導体プロセスの微細化やパワー半導体拡大に伴い、熱マネジメントが重要になる中で、高性能なTIMが求められています。今回の戦略的投資により、Arieca社の保有する材料開発技術・プロセスを取り込むことで、当社の材料開発のさらなる加速が期待されます。

# 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当中間期における国内景気は、行動制限の緩和等を受けて個人消費が回復基調を示したものの、原材料価格の高騰や物価の上昇等の影響で本格的な回復には至りませんでした。

当社グループの概況につきましては、化学品セグメントは、原燃料価格などの上昇に伴う価格改定などが寄与し、基礎化学品では尿素・「アドブルー®※1」(高品位尿素水)、ファインケミカルでは「テピック」(粉体塗料硬化剤、封止材材料等)を中心に増収となりました。機能性材料セグメントは、ディスプレイ材料では「サンエバー」(液晶配向材用ポリイミド)が減収となりましたが、半導体材料では半導体用反射防止コーティング材(ARC®※2)および多層材料(OptiStack®※2)が顧客の稼働好調を受けて増収となりました。農業化学品セグメントは、昨年度に顧客在庫調整が終了したフルララネル(動物用医薬品原薬)が増収となりました。国内向けは、「ラウンドアップ」(非選択性茎葉処理除草剤)の販売が堅調に推移しました。海外向けは、「ライメイ」(殺菌剤)や「パーミット」(除草剤)、「グレーシア」(殺虫剤)が好調で売上が増加しました。ヘルスケアセグメントは、「リバロ」(高コレステロール血症治療薬)原薬は、海外向けの出荷が堅調でした。「ファインテック」は、出荷時期のずれ等により減収となりました。

この結果、当中間期は、売上高、利益ともに前年同期を上回りました。なお、中間配当金につきましては、1株当たり70円(前期中間配当金に比べ20円増配)とさせて頂きました。

今年度の業績予想につきましては、足元での需要予測をもとに、本年8月の公表値について、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益すべてを上方修正いたしました。前年比でも、増収増益となる見通しとなっています。

当社グループは、本年4月より、2050年のあるべき姿を描いた長期経営計画「Atelier2050」ならびにその通過点である2027年の姿を示す「Vista2027」をスタートさせました。各経営計画実現に向け、計画初年度である今年度は極めて重要であると認識しており、基本戦略に基づく諸施策を着実に実行し、グループを挙げて利益目標の達成を目指してまいる所存です。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

取締役社長　八木 晋介

※1 アドブルー®はドイツ自動車工業会(VDA)の登録商標です。

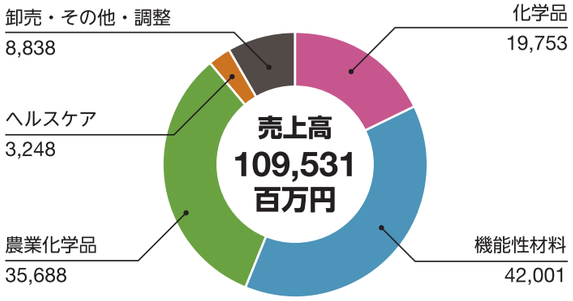
※2 ARC®、OptiStack®はBrewer Science, Inc. の登録商標です。

# セグメント別概況

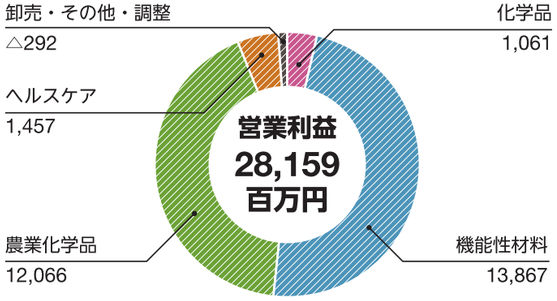
## 2022年度中間期

「決算短信・決算説明資料」の詳細はこちら

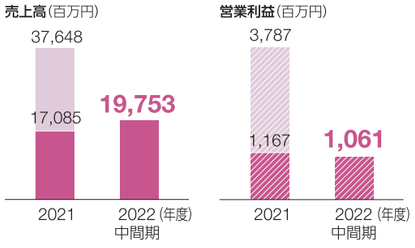
### 売上高構成




### 営業利益構成




## 化学品セグメント　売上高構成比：18.0%

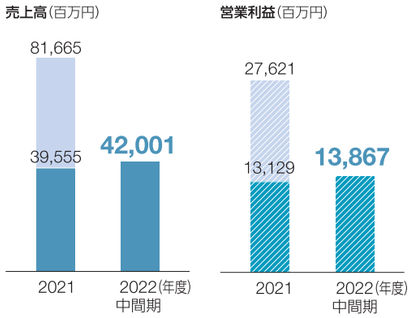


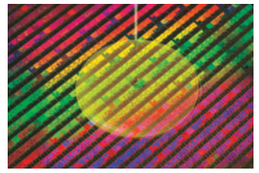

基礎化学品では、原燃料価格や運賃の上昇に伴う価格改定などが寄与し、メラミン(合板用接着剤等)や尿素・「アドブルー®※」(高品位尿素水)が増収となりました。ファインケミカルにおいても、「テピック」(粉体塗料硬化剤、封止材材料等)や環境化学品(プール・浄化槽用殺菌・消毒剤等)の売上が増加しました。しかし、セグメント全体では、増収減益となりました。

この結果、当セグメントの売上高は197億53百万円(前年同期比26億68百万円増)、営業利益は10億61百万円(同1億6百万円減)となりました。

※アドブルー®はドイツ自動車工業会 (VDA) の登録商標です。

## 機能性材料セグメント　売上高構成比：38.3%



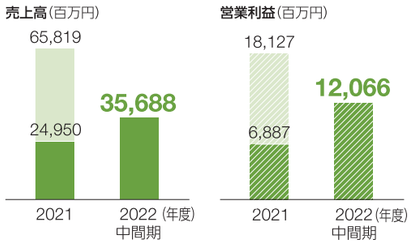



ディスプレイ材料では、「サンエバー」(液晶配向材用ポリイミド)が減収となりました。半導体材料は、半導体用反射防止コーティング材(ARC®※)および多層材料(OptiStack®※)が顧客の稼働好調を受けて増収となりました。無機コロイドは、「スノーテックス」(電子材料用研磨材、各種表面処理剤等)やオルガノシリカゾル・モノマーゾル(各種コート剤、樹脂添加剤)、オイル&ガス材料(シェールオイル・ガス採掘効率向上材)が堅調に推移しました。

この結果、当セグメントの売上高は420億1百万円(前年同期比24億46百万円増)、営業利益は138億67百万円(同7億37百万円増)となりました。

※ARC®、OptiStack®はBrewer Science, Inc. の登録商標です。

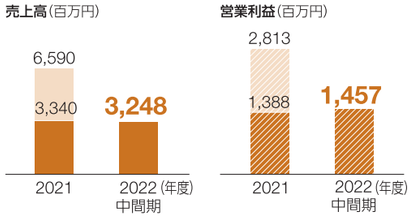
## 農業化学品セグメント　売上高構成比：32.6%



フルララネル(動物用医薬品原薬)は昨年度に顧客在庫調整が終了し、増収となりました。国内向け農薬は、「ラウンドアップ」(非選択性茎葉処理除草剤)や「グレーシア」(殺虫剤)、「アルテア」(水稲用除草剤)が堅調な売上となりました。海外向け農薬は、「ライメイ」(殺菌剤)や「パーミット」(除草剤)、「グレーシア」が好調に推移したことに加え、一部出荷時期のずれ等も寄与し大幅な増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は356億88百万円(前年同期比107億38百万円増)、営業利益は120億66百万円(同51億78百万円増)となりました。

## ヘルスケアセグメント　売上高構成比：3.0%



「リバロ」(高コレステロール血症治療薬)原薬は、海外向けの出荷が堅調でした。「ファインテック」は、出荷時期のずれ等により減収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は32億48百万円(前年同期比91百万円減)、営業利益は14億57百万円(同69百万円増)となりました。

◉ 当期から「医薬品セグメント」を「ヘルスケアセグメント」に改称するとともに、一部部門の帰属セグメントの変更を実施しております。前期のセグメント情報につきましては、変更後のセグメント区分に基づき作成しております。